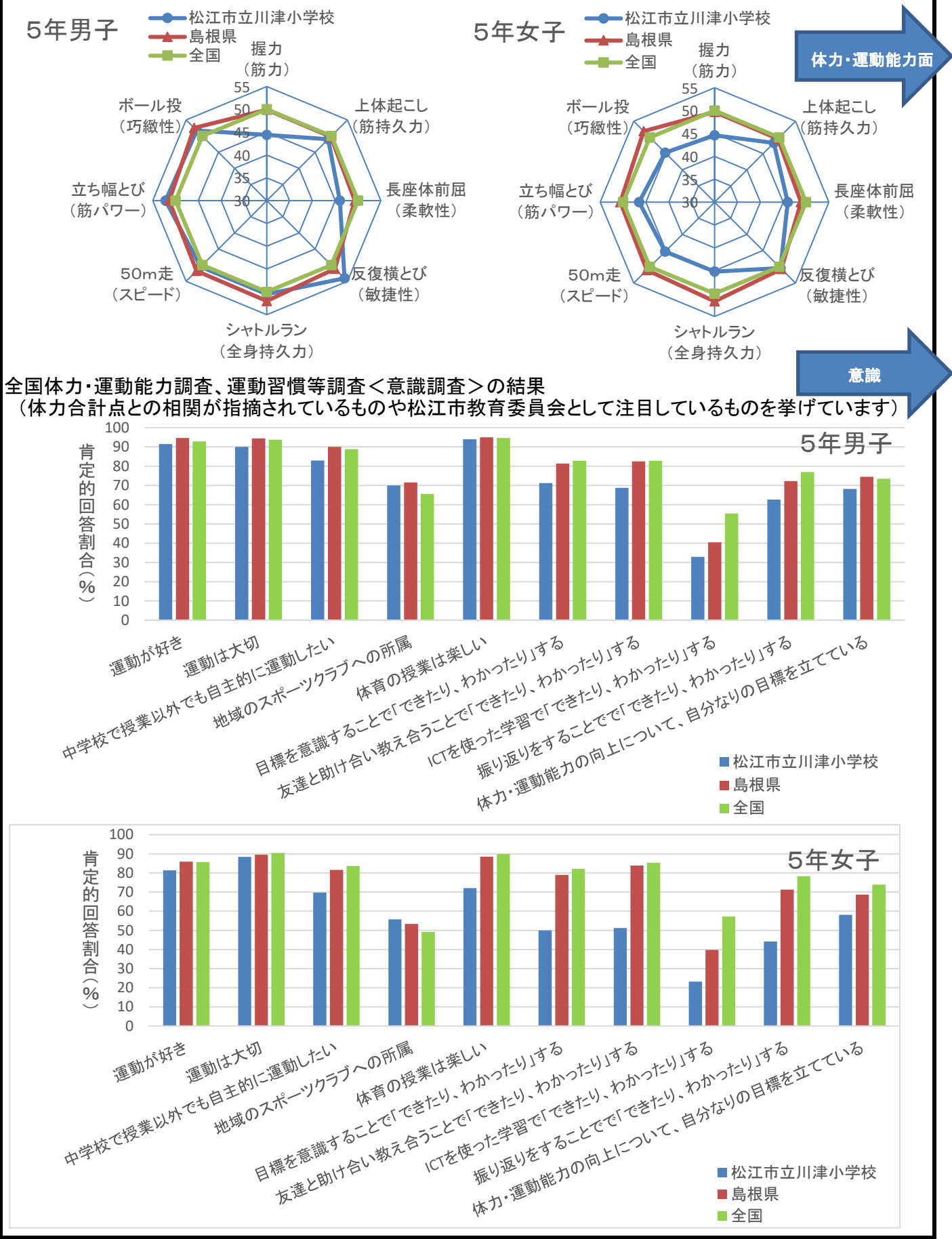


(1) 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-5.6	-1.0	-4.0	4.1	0.5	0.5	2.2	1.7
女子	-5.4	-1.7	-4.0	0.4	-4.8	-4.7	-3.5	-4.7

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	運動は大切	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する
男子	-1.4	-3.8	-5.9	4.4	-0.7	-11.6	-14.1	-22.6
女子	-4.3	-2.0	-13.9	6.6	-17.8	-32.2	-34.1	-34.0

振り返りをする中で「できたり、わかったり」する
体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている

男子	-14.3	-5.3
女子	-34.1	-15.8

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和6年度の方針【学校全体での取組】

- ① 体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について
- ・投力、握力の向上を目指し、効果的な指導方法についての研修を計画・実施する。
- ② 体育科授業の工夫・改善について
- ・児童が目的意識と見通しをもって授業を受けられるように、授業のめあて(全体・個人)の提示を徹底する。
 - ・年度初めに「体育授業の共通ルール」と「授業充実のポイント」について全職員に示し、共通理解を図る。
 - ・運動領域に応じて、授業の準備運動時に基礎感覚を高める運動(5種目歩走など)を取り入れる。
 - ・年間指導計画を調整し、同領域の運動の実施時期を合わせたり、共通の場づくりを行ったりして、準備や片付けの負担を軽減し、授業の充実を図る。
 - ・低学年で、体育授業で積極的な校庭遊具の活用を図り、基礎感覚を養う。
 - ・タブレットを授業に使用する単元や機会を各学年で事前に検討し、効果的な活用を図る。
 - ・夏期休業中に、体力調査の結果を分析し、2学期以降の体育授業や体育的取組の改善を行う。
 - ・低学年での、校庭遊具の体育的活用を実施する。
- ③ 体育授業以外の活動の工夫について
- ・体育部を中心に、施設や備品等、運動環境を見直し、充実を図る。
 - ・鬼ごっこやなわとびなどの楽しく体を動かす遊びのイベントを児童主体で計画し、毎学期実施する。
 - ・体育館倉庫や校庭倉庫の用具について、配置や数を見直し、機能的で使いやすい環境づくりを行う。
- ④ 家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信について
- ・長期休業中に、体育部で作成した「チャレンジカード」を活用して、家庭での体力づくり(ジョギング・なわとび・ストレッチ)を推進する。
 - ・嵩の杜学園の各小学校との連携を図り、系統的な指導を重視した指導計画・指導方法の改善に生かす。
 - ・各学年の発達段階に応じて「食事」「睡眠」「運動」の3原則の大切さを指導し、学校便りや学級通信等で家庭へも伝え、啓発を行う。
 - ・年間計画に沿い栄養教諭と連携しながら、食育の充実を図る。